

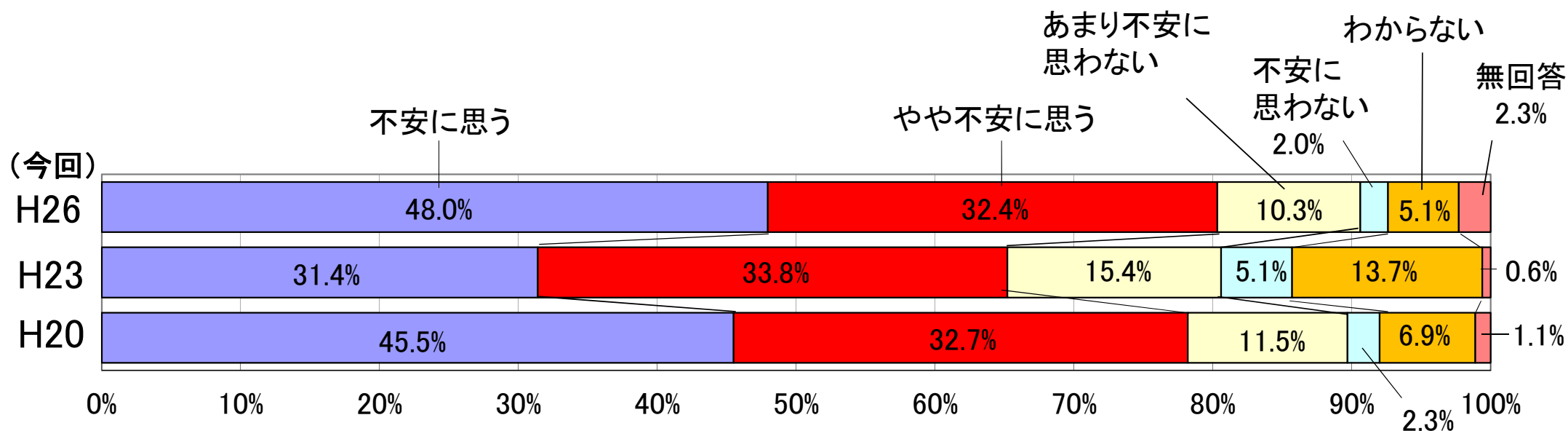
# 平成26年度道民意識調査の結果

## (遺伝子組換え作物について)

### 【調査方法等】

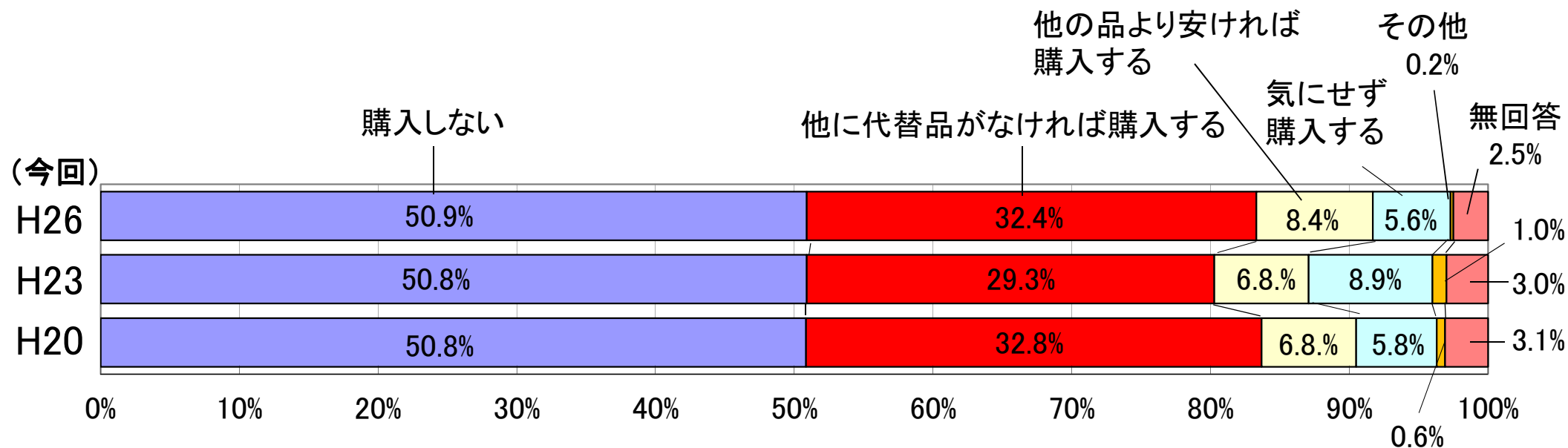
- 調査地域：北海道全域
- 調査対象：道内に居住する満20歳以上の個人
- 標本数：1,900サンプル
- 地点数：190地点
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査時期：平成26年7月
- 有効回収数(率)：871(45.8%)
- 結果公表：平成26年11月6日

問1 遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性について、どのように思いますか。



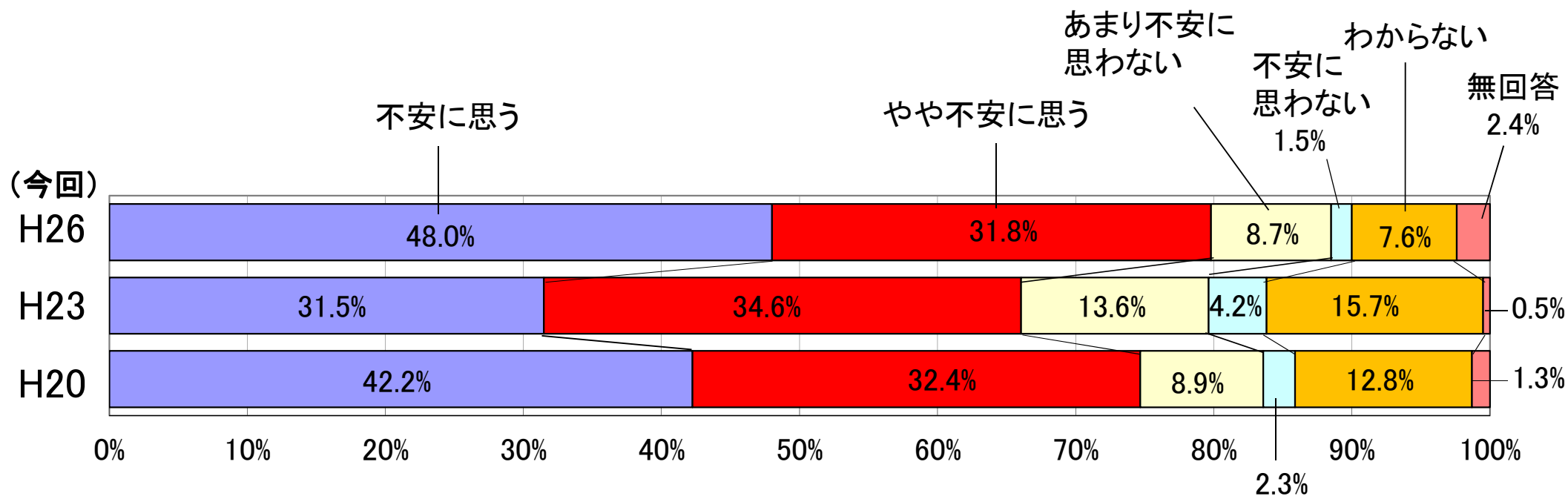
「不安に思う」と「やや不安に思う」で80.4%と、不安を持っているとの回答が8割を占め、前回(H23～65.2%)より増加している。

問2 購入しようとした作物及び加工食品に「遺伝子組換え」と表示されている場合、どのように対応しますか。



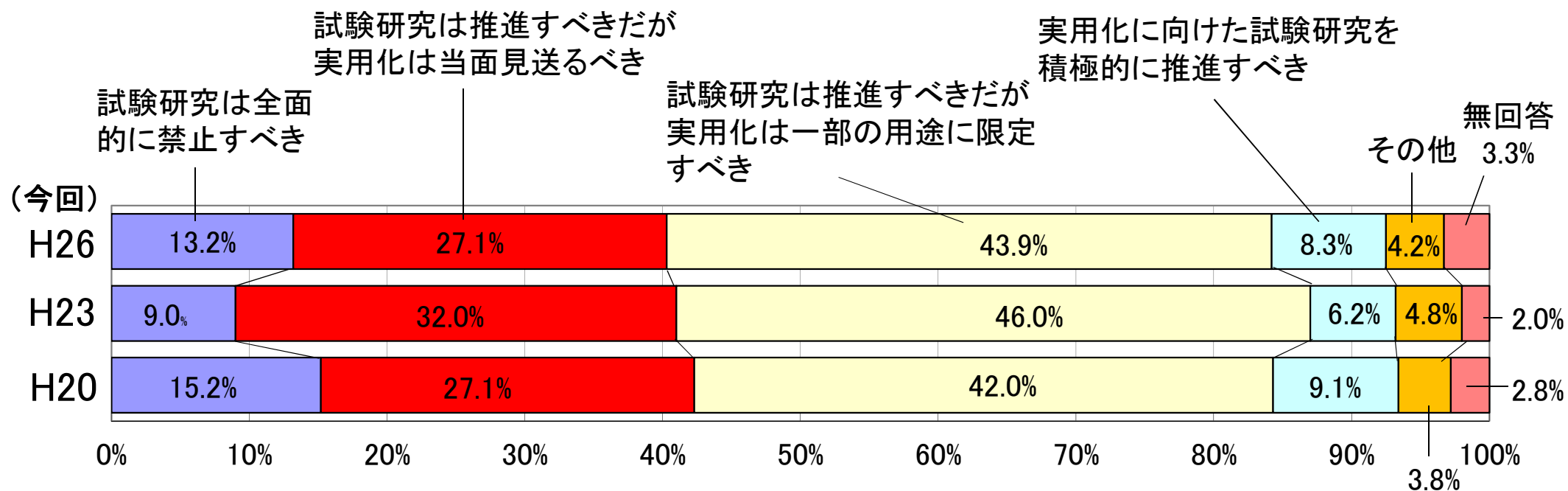
「購入しない」は横ばいで、50.9%と約半数が購入することに否定的である一方、「気にせず購入する」は1割未満となっており、「遺伝子組換え」と表示されている場合の抵抗感は依然と強い状況にある。

問3 遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響について、どのように思いますか。



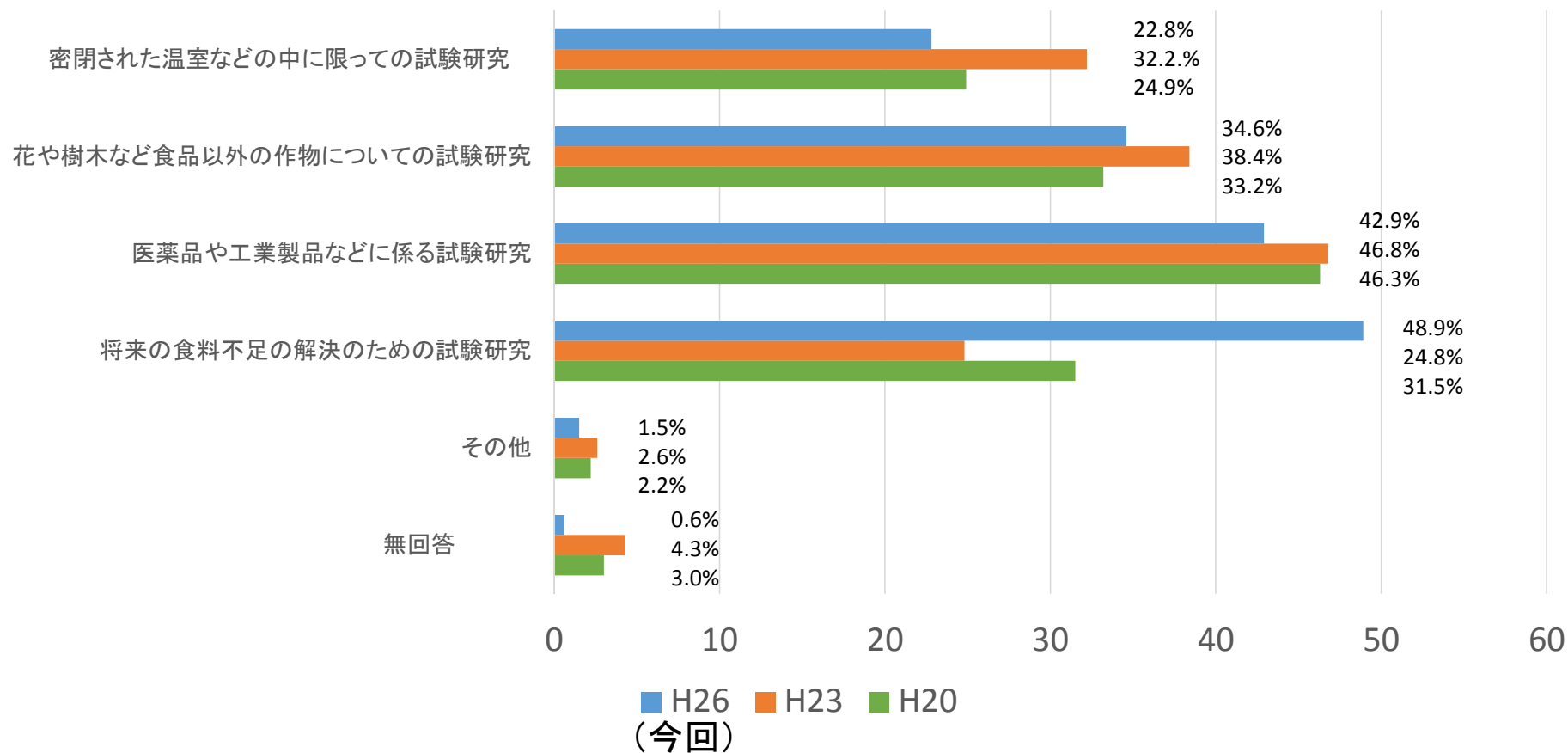
「不安に思う」と「やや不安に思う」で79.8%と、約8割が不安を持っている。

#### 問4 遺伝子組換え技術の研究について、どのように思いますか。



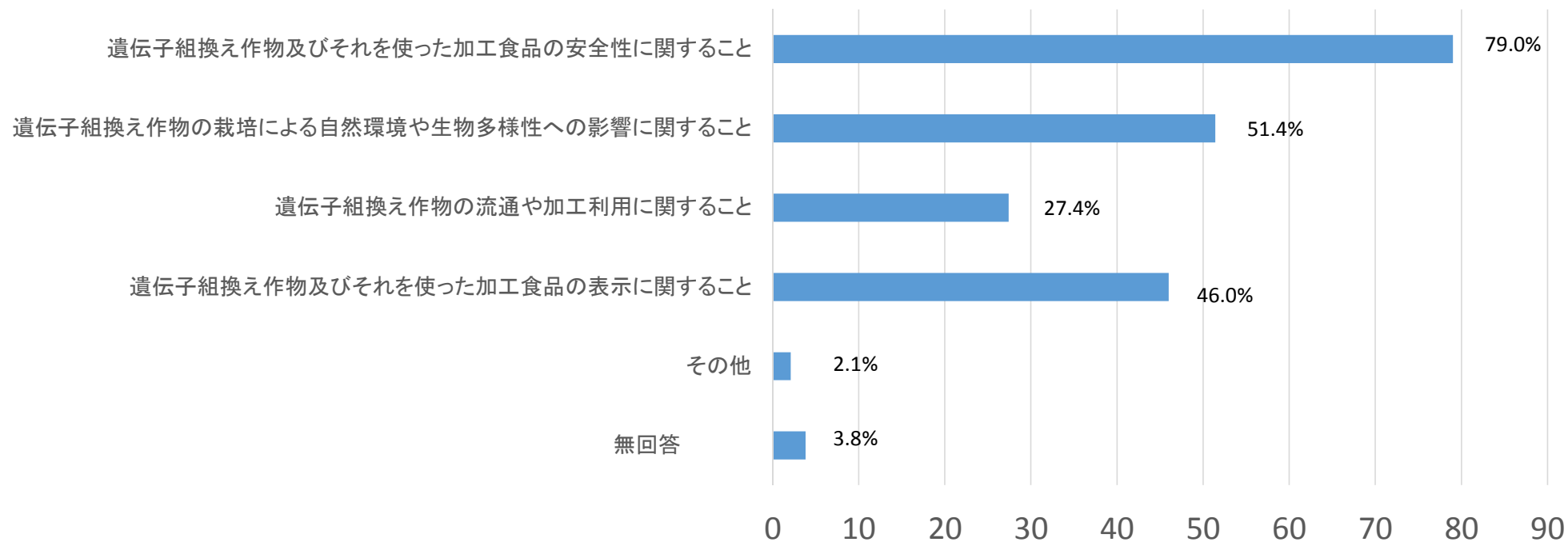
「実用化に向けて積極的に推進すべき」は引き続き1割に満たないが、「一部の用途に限定」や「実用化は当面見送る」といった条件付きも含めると、試験研究を推進すべきとする意見は、約8割を占める。

**問5** (「問4」で試験研究は推進すべきだが「実用化は一部の用途に限定」または「実用化は当面見送る」を選んだ方)  
**どのような試験研究なら行ってもよいと思いますか(複数回答)**



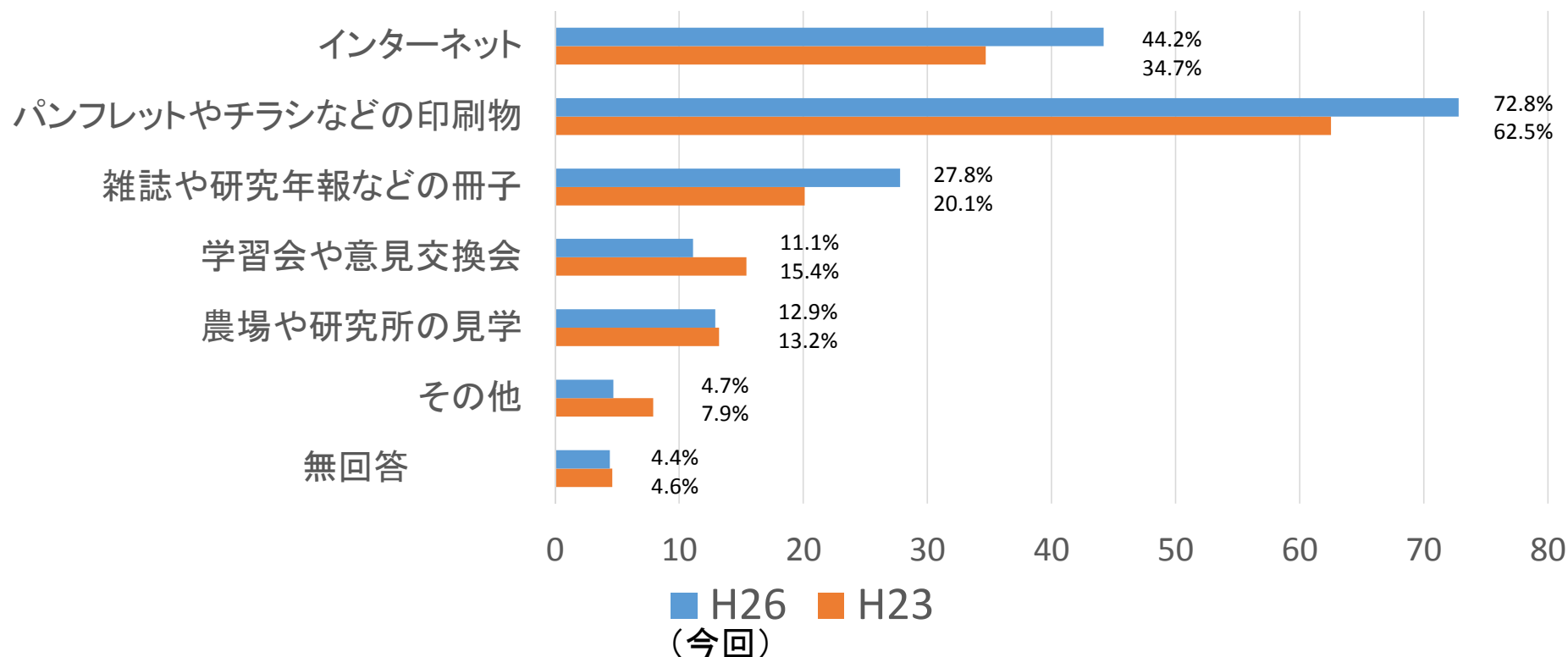
過去2回の調査と比較し、「将来の食料不足の解決のため」が大きく増加した。

問6 遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品について、どのような情報を入手したいと思いますか。  
(複数回答)



安全性への関心が、自然環境・生物多様性への影響や、食品表示に関することを大きく上回っている。

問7 問6で選んだ情報について、どのような手段で入手したいと思いますか。(複数回答)



H26「学習や意見交換会」→H23は「講習会・研修会など」

H26「農場や研究所の見学」→H23は「事業者や研究者との意見交換会、田や畑等の見学」

パンフレット等の印刷物やインターネットという回答が多いが、意見交換会や農場等の見学との回答が、1割を超える結果となった。